

1998. 11. 3号

NEVER

編集：五味亜矢子、藤原夕、飯嶋玲子

11/3(火) 1部 - 2部入替戦

12:00 KICK OFF

日本体育大学

(1部リーグ8位) VS

東京学芸大学

(2部リーグ1位)

14:00 KICK OFF

慶應義塾大学

(1部リーグ7位) VS

日本大学

(2部リーグ2位)

入替決定方法

日体大(1部8位)VS東学大(2部1位)

[日体大の勝ち]

日体大は1部、東学大は2部にそれぞれ残留

[東学大の勝ち]

日体大は6年振りに2部降格

東学大は初の1部昇格

[引き分け]再試合(日時、会場とも未定)

[再試合・再度引き分け]それぞれ残留

慶應義塾大(1部7位)VS日大(2部2位)

[慶應義塾大の勝ち]

慶應義塾大は1部、日大は2部にそれぞれ残留

[日大の勝ち]

慶應義塾大は2年振りの2部降格

日大は7年振りの1部昇格

[引き分け]それぞれ残留

1部リーグに昇格して5年の日体大。毎年8位が定位置となってしまうのは、必然なのだろうか…。年月を重ね、アーリー監督をオランダから招へいして3年、チーム力も徐々にではあるが向上してきている。1試合1試合を見れば、上位校とも対等に渡り合っていく戦術、実力、気力も備えつつある。必ずしも、必然であるとは言いきれない。しかし、リーグ戦という7試合を終えた時、トータルの結果では上位との差を歴然と見せつけられる。

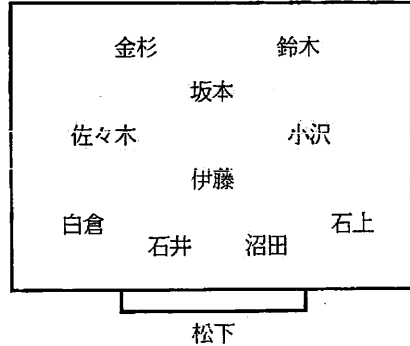
毎年、1・2戦目でリーグのすべてが決まってしまう—そんな感がある。駒澤大に2-3、そして国士大に1-1。確かに、局面の判断力やタイトな場面でのプレーの確実性では劣る中で、粘り強い守備を見せ、中盤の坂本やルーキーのFW金杉らを中心に、果敢に相手ゴールを脅かした。国士大戦では、時に最終ラインに6人が並ぶ分厚い守備からカウンターで先制点を奪い、3年振りのリーグ戦での勝利を目前にしていた。しかし、最後のワンプレーでの失点。負けに等しい引き分けを喫したことが、リーグの流れを決めてしまった。その後、5連敗…。

試合ごと、システムや選手起用が大きく変わるアーリー監督の采配だが、今リーグは比較的動きが少なかった。特に守備陣のメンバーはほぼ不動だ。そして期待は、昨年の入替戦再試合でデビューした鈴木 の得点力。リーグ中はまさかの無得点だったが、決定的なシュートがごとごとくポストに嫌われた。佐々木、岡松らのサイド攻めや、坂本、小沢のゴール前に絡む動きが決定機をつくれるか。わずかなチャンスを生かす集中力が、勝負の分かれ目だ。

日本体育大学

最近4年間の成績

- '95 1部リーグ8位(1勝6敗)
→入替戦 VS 専修大
2-0で勝利し残留
- '96 1部リーグ8位(3敗4分)
→入替戦 VS 亜細亜大
0-0、再試合0-0で残留
- '97 1部リーグ8位(5敗2分)
→入替戦 VS 青学大
1-1、再試合4-2で残留
- '98 1部リーグ8位(6敗1分)
→入替戦 VS 東学大



日本体育大学 V S 東京学芸大学

昨季リーグ戦では1勝も挙げられず、チーム全体が“自信喪失”の状態に陥ってしまった東学大。今年から監督に就任した松本直也監督も「春は自信のないようなプレーが目立った」と認めるように、春の関東選手権では國學院大に敗れ、まさかの予選敗退を喫した。

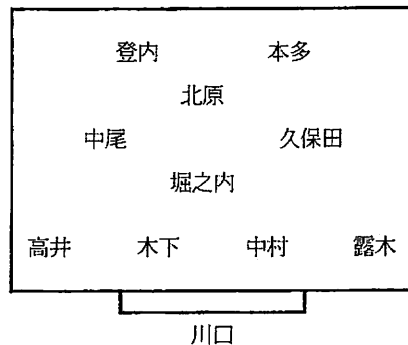
だが、開幕戦で総理大臣杯優勝校の早大相手に1年振りの勝ち星を挙げると、続く専修大にも連勝。「勝ちたいというより、勝つんだという気持ち」(登内主将)がチームに浸透し、連敗にも気を落とすことなく、ついには初優勝を手にした。今まではどちらかといえば“守り”の印象が強かった東学大だが、今年はむしろ攻撃力の高さが特徴。中でも登内がフリースペースをつくり、伊藤、本多らスピードのある選手が絡むというのは、今年の得点パターンのひとつだ。また、中盤から思い切りのいいミドルシュートでゴールを狙う久保田、正確なプレーと状況判断力が魅力の堀之内の1年生コンビも、リーグで大きく成長。卓越したパスセンスで攻撃を組み立てる北原と中尾、右SBの露木のオーバーラップと、幾重にも攻撃の形を持っているのは大きい。とはいえ、東学大のベースは攻守の切り替えが早く、両サイドや中盤のスペースを有効に使って攻めるといふ、ごくシンプルなサッカー。それだけに、入替戦も「新しいことをするのではなく、今まで積み重ねてきたものを出すだけ」(松本監督)。まさにリーグ戦の集大成となる試合を目指す。

・気になる点といえば、リーグ戦では相手に先制点を挙げられた試合を落としているということか。チャレンジするという立場から考えても“先手必勝”が必要となることは、まず間違いないだろう。

東京学芸大学

最近4年間の成績

- '95 2部リーグ4位(2勝2敗3分)
- '96 2部リーグ8位(1勝4敗2分)
→入替戦 VS 拓殖大
1-0で勝利し2部残留
- '97 2部リーグ8位(7敗)
→入替戦 VS 立正大
1-1、再試合1-1で残留
- '98 2部リーグ1位(5勝2敗)
→入替戦 VS 日体大



リーグ直前に故障者が続出。レギュラーではFW山口、MF四戸を欠き、万全の体制を組めないままスタートしたシーズンだった。それでも決して消極的にならず、引き分けに持ち込んだ国士大との開幕戦や白星を挙げた3節の駒大戦では、素早いチェックから相手の持ち味を消し、「嫌がられるサッカー」で存在を示した。

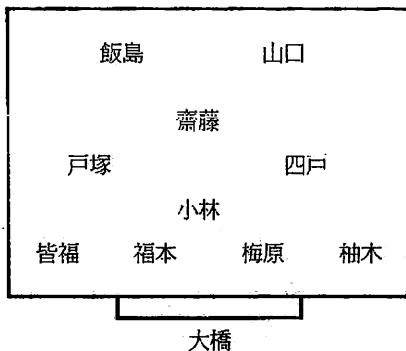
しかし、4節からは精彩を欠き3連敗。決定力のなさから守備のバランスを崩したことが苦戦の原因といえるだろう。相手のプレッシャーを避けるあまり、攻め急いでミスを重ねる。そのスキから先制され、1点差を持ちこたえられずに、試合終盤にダメ押し点を奪われることが多かった。結果的にこの得失点差が響いて入替戦に回るようになったが、リーグを意識するあまりどこか全力を出し切れない戦いぶりが続いたようにも感じられる。ひとつの敗戦、ひとつの失点を通じて、本当に「窮地に立たされた状況」を覚悟できたかどうか…。集中力が途切れ、今一步慶應らしい泥臭い粘り強さが見られなかったのは残念であった。

ただし、1部の場で1年日ながら、真正面から渡り合った手応えも掴んだはず。昨年自らの力で昇格を果たした選手たちが、身をもって感じた2部との差は、7試合を戦ったあとには自信に変わる。MF戸塚、富田、SB皆福ら来シーズンへの期待を抱かせるように遅くなり、怪我から復帰した山口、四戸がフィットしてきたことも明るい材料だ。昨年とは反対に守る立場となるが、あとのない状況でどれだけ底力が発揮できるか。攻め込まれる時間帯においてもパニックに陥ることなく冷静に対処したい。1部で積み重ねた経験を無駄にしては終われない。このまま敗れては終わらない。

慶應義塾大学

最近4年間の成績

- '95 2部リーグ3位(3勝2敗2分)
- '96 2部リーグ4位(3勝3敗1分)
- '97 2部リーグ2位(4勝2敗1分)
- 入替戦 VS 早稲田大
1-0で勝利し1部昇格
- '98 1部リーグ7位(2勝4敗1分)
- 入替戦 VS 日大



慶應義塾大学 VS 日本大学

徐々に“チーム”になってきた——というのが、今リーグの日大から受けた印象だ。個人技に頼るあまりバラバラの個人プレーが目立った近年は、都県リーグとの入替戦にまわるなど苦しい戦いが続いていた。磯田コーチを迎えた今年は「一人がボールを持つ時間を短くし、チームで持つ時間を長く」という意識を徹底し、ワンタッチ、ツータッチでさばく形がコンビネーションプレーを引き出した。

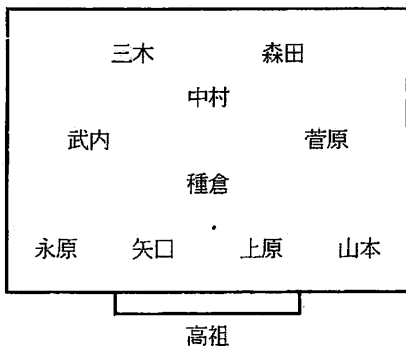
亜大戦で4-2と、近年になく良いスタートを切ったものの、続く青学大戦で1-4と大敗。開幕戦と戦い方を変えたのが裏目に出たが、「相手の良さを消そうとするサッカーより、自分たちの長所を生かすサッカーをすること」の重要性を再認識したという意味では、「転機だった」(磯田コーチ)。3節からの3連勝のあと、“優勝”が見えかけた6節早大戦で0-2と完敗。しかし、入替戦出場をかけた最終節法大戦で、先手を取っては2度追いつかれる苦しい試合運びながら勝利をもぎ取り、優勝した東学大とともに勝ち点15で、16得点。得失点差の2位を確保した。

失点12、無失点試合は1試合というのが少々気にかかるが、先制されても追いつける、追い上げられても突き放せるという、勝負強さも確実に浸透しつつある。ディフェンスは上原を中心とし、1年生ながら落ち着いたプレーを見せる矢口、同じく1年生GKの高祖がゴール前を固める。攻撃陣では、今リーグからお目見えした森田、三木の2トップが試合を重ねて成長した。中盤のテクニシャン中村、運動量のある武内らを絡め、ピッチを広く使ったスピーディなサッカーで、7年振りの1部昇格を狙う。

日本大学

最近4年間の成績

- '95 2部リーグ7位(1勝3敗3分)
- 入替戦 VS 東洋大
2-2で引き分け2部残留
- '96 2部リーグ7位(2勝4敗1分)
- 入替戦 VS 東海大
2-1で勝利し2部残留
- '97 2部リーグ3位(4勝2敗1分)
- '98 2部リーグ2位(5勝2敗)
- 入替戦 VS 慶應義塾大



順位	1部	国大	順大	明大	中大	筑波大	慶大	日体大	勝点	勝数	分差	得失点	得失点差
1	国士堂大学	3-1	1-2	2-0	1-0	4-1	0-0	1-1	10	4	12	5	+7
2	順天堂大学	1-2	2-1	1-1	1-2	3-0	2-0	2-0	10	4	2	12	+5
3	明治大学	2-1	1-2	0-2	2-2	1-0	3-1	2-1	10	4	2	11	+2
4	中央大学	0-2	1-1	2-0	1-1	2-2	4-2	3-0	10	3	13	8	+5
5	駒澤大学	0-1	2-1	2-2	1-1	2-0	0-2	2-2	10	3	2	10	+1
6	筑波大学	1-4	0-3	0-1	2-2	0-2	2-4	0-1	10	2	4	10	-3
7	慶應義塾大学	0-0	0-2	1-2	2-4	2-0	0-2	2-0	10	2	4	1	-4
8	日本体育大学	1-1	0-2	1-2	0-3	2-3	1-5	0-2	10	0	6	1	-13

順位	2部	東学大	日大	法大	亜大	青学大	早大	専大	東慶大	勝点	勝数	分差	得失点	得失点差
1	東京学生大学	0-4	0-1	4-0	0-1	3-1	3-0	4-0	10	5	2	0	16	+9
2	日本大学	4-0	3-2	4-2	1-4	0-2	2-1	2-1	10	5	2	0	12	+4
3	法政大学	1-0	2-3	1-2	3-2	0-0	0-0	2-0	10	3	2	9	+2	
4	亜細亜大学	0-4	2-4	2-1	0-0	3-1	2-0	1-1	10	3	2	10	-1	
5	青山学院大学	1-2	4-1	2-3	0-0	2-0	2-3	1-0	10	3	3	1	12	+3
6	早稲田大学	1-2	2-0	0-0	1-3	0-2	3-1	2-1	10	3	3	1	9	-1
7	専修大学	0-3	1-2	0-0	0-2	3-2	1-3	3-2	10	2	4	1	8	-6
8	東京農業大学	0-4	1-2	0-2	1-1	0-1	1-2	2-3	10	0	6	1	5	-10

2部 都県入替戦

11/22(日) 西が丘サッカー場

12:00 KICK OFF

東京農業大学 VS 都県リーグ1位
(2部リーグ8位)

14:00 KICK OFF

専修大学 VS 都県リーグ2位
(2部リーグ7位)

◆関東大会◆

Aブロック

	立正大	国武大	東経大	拓殖大
立正大	-	11/7	11/3	0●1
国武大	11/7	-	1●2	11/3
東経大	11/3	2○1	-	11/7
拓殖大	1○0	11/3	11/7	-

Bブロック

	神大	学習院	城西大	流経大
神大	-	11/7	11/3	1△1
学習院	11/7	-	0●1	11/3
城西大	11/3	1○0	-	11/7
流経大	1△1	11/3	11/7	-

※各ブロック1位の大学が、11/14(土) 13:00より、熊谷運動公園陸上競技場にて決勝戦を行ない、優勝校が1位、準優勝校が2位となり、関東2部リーグとの入替戦に臨みます。

1998.11.22号

NEVER

編集：五味田矢子、飯嶋玲子

11/22(日) 2部一都県入替戦 於：西が丘サッカー場

12:00 KICK OFF

東京農業大学

(2部リーグ8位)

V S

拓殖大学

(都県リーグ1位)

14:00 KICK OFF

専修大学

(2部リーグ7位)

V S

流通経済大学

(都県リーグ2位)

入替決定方法

東農大(2部8位)VS拓殖大(都県1位)

[東農大の勝ち]

東農大は2部、拓殖大は東京都1部に残留

[拓殖大の勝ち]

東農大は初の東京都1部降格

拓殖大は15年振りの関東2部昇格

[引き分け]再試合(日時、会場とも未定)

[再試合・再度引き分け]それぞれ残留

専修大(2部7位)VS流通経済大(都県2位)

[専修大の勝ち]

専修大は2部、流経大は茨城県リーグに残留

[流経大の勝ち]

専修大は10年振りの東京都1部降格

流経大は初の関東2部昇格

[引き分け]それぞれ残留

自信を持って臨んだリーグだった。昨年は7位と結果を残せなかったものの、金子、本田らリーグを戦った若手選手が確実な成長を見せ、春の関東選手権や天皇杯予選では粘り強いサッカーを披露。中でも、ややスロースターター気味の攻撃陣を支える安定したDFラインは大きな魅力だった。3バックから4バックラインディフェンスへの変更も、このDF陣あってのこと。だが、自信を持って臨んだリーグだけに、序盤の連敗が尾をひき、さらに連敗を重ねるといった悪循環。結局勝ち星のないままリーグを終了し、最下位という屈辱を拜することになった。

しかし、リーグ序盤には狙い通りの戦い方ができていたのは確かだ。1-0で敗れたものの、昨年2部優勝の青学大には早いチェックで互角の戦いまで持ち込めたし、2節の早大戦でも早い時間に先制点をあげている。だが、若い選手が多いチームだけに度重なる失点と敗戦に自信を失い、中盤までもがラインをずるずると下げて、攻撃への展開が見出せなくなったのが大きな敗因だろう。

攻撃陣が不振だったリーグだが、決して駒を欠いているわけではない。スピードのある酒井や、独特の展開力とセットプレーが期待できる石川、金子のミドルシュートなどチャンスは事欠かない。リーグ序盤で見せたように、守備ラインからそれぞれの役目をカッチリと押さえることができれば、彼ら攻撃陣もその実力を存分に発揮できるはずだ。相手が波に乗る前に、いかに攻撃の展開を組み立てていくか。リーグではそうした攻守のバランスを崩すシーンが目立っただけに、そこをどう修正してきたかがポイントとなるだろう。

東京農業大学

最近4年間の成績

- '95 2部リーグ2位(3勝2敗2分)
→入替戦 VS 明治大
1-3で敗退し残留
- '96 2部リーグ3位(4勝3敗)
- '97 2部リーグ7位(2勝5敗)
→入替戦 VS 東海大
0-0で引き分け残留
- '98 2部リーグ8位(6敗1分)
→入替戦 VS 拓殖大

	宮本		酒井	
	早川			石川
		金子		岡村
本田		小桜	清水	古荘

村井

東京農業大学 V S 拓殖大学

中森大介(モンテディオ山形)、杉山貴之(ジェフ市原→大宮アルディージャ)の2トップを擁し、東京都1部リーグ・関東大会をともに制して関東2部リーグとの入替戦に臨んだのは2年前。堅実なディフェンスと豪快な得点力をひっさげて挑んだが、引き分け・再試合が濃厚となった試合終了直前、選手交代で集中力が途切れたあとの一瞬に得点を許し、昇格はならなかった。

主将の鈴木英をはじめその入替戦経験者が5人残っている拓大だが、2年前の豪快さとは一変、僅差を制する「ディフェンスが耐えられるチーム」(玉井朗監督)へとチームカラーが変貌した。神村を中心に落ち着いたディフェンスラインは、フィールドプレーヤーのような動きを見せるGKの鈴木英まで含めたボール回しから攻撃をビルドアップする。攻撃陣は、速さはそれほどないが、中盤からゴール前へ運ぶパス回しにはなかなか見どころがある。攻撃の中心はFWの染谷。粗削りだが、強引にゴール前に飛び込んでいく姿勢は、相手DFにとっては嫌な存在になるだろう。中盤の竹田、渡辺からのスルーパス、竹田、鈴木勝のミドルシュートも見ものだ。

今年の東京都リーグでは立ち上がりで1勝2分1敗とつまづき、関東大会出場も危ういかと思われたが、5節から巻き返し、「負けなかったこと」が功を奏した。関東大会は、昨年優勝の立正大をはじめ厳しいブロックに入ったものの、勢いのまま4連勝。ただし入替戦では「引き分けイコール負け」である。課題は決定力、そして、初めて立つ西が丘の雰囲気を楽しめるかどうかだ。

拓殖大学

最近4年間の成績

- '95 東京都1部2位(4勝1敗1分)
関東大会準決勝で敗退
- '96 東京都1部1位(6勝)
関東大会優勝で都県1位
→入替戦 VS 東京学芸大
0-1で敗退し東京都残留
- '97 東京都1部2位(4勝1敗1分)
関東大会予選リーグで敗退
- '98 東京都1部4位(3勝1敗3分)
関東大会優勝で都県1位
→入替戦 VS 東京農業大

	染谷		伊賀	
		竹田		
	飯島			渡辺
		鈴木勝		
坂本	神村	林		市川

鈴木英

2勝4敗1分け、得点8、失点14。無失点試合は、0-0のドローだった開幕・法大戦のみである。ただし、「点を取って勝っていくチーム」専大にとって、ある程度の失点は覚悟していたはずだった。試合経験豊富なDF菅沼の戦線離脱の穴を、加納の成長と鶴沢の冷静なプレーで埋めたかと思えたが、開幕戦で主将の菅原が、2節の東学大戦でGK鈴木が負傷。大柄で「守備範囲の広い鈴木」の欠場は痛かった」と、吉川監督は振り返った。

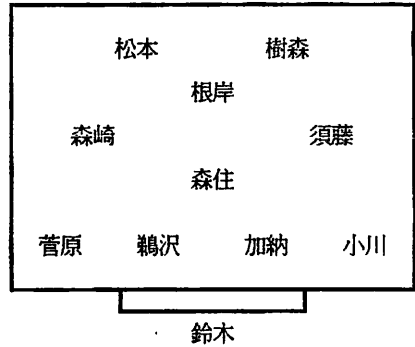
しかし、どこが上位になっても下位になってもおかしくなかった混戦の2部リーグにあって、完敗と言えるのは2節の東学大戦くらいのものであろう。1、2節は無得点。全日本大学選抜にも名を連ねる樹森を軸にしようとするあまり、マークのきつい彼への無理なパスをすべてカットされ、攻撃の形を組み立てることさえままならなかった。3節のスタメンから、トップ下に運動量のある根岸を起用して、中盤でのルーズボールが拾えるようになった。また、3トップ気味だったFWを2トップにし、中盤左に森崎を起用したことで、前線への効果的なパスが増え、樹森も左右に幅広く動けるようになって、攻撃が噛み合ってきた。

試合の1週間前まで相手が決まらないという下部リーグとの入替戦は、現役選手たちは初の経験だ。しかし、「相手がどうこう言うより、自分たちの気持ちの面だけを修正してきた」と、飯田コーチは言う。3年生が多いチームだ。「いい意味での」緊張感を持って、臨めればよいのだが。

専修大学

最近4年間の成績

- '95 2部リーグ1位(6勝1分)
→入替戦 VS 日体大
0-2で敗退し残留
- '96 2部リーグ6位(2勝2敗3分)
- '97 2部リーグ5位(3勝3敗1分)
- '98 2部リーグ7位(2勝4敗1分)
→入替戦 VS 流通経済大



専修大学 VS 流通経済大学

関東大会3度目の挑戦にして、関東リーグとの入替戦出場権を手にした流経大。サッカー部が強化部指定されたのが2年前というから、これは快挙と言っていい。今年から総監督に迎えた中野雄二氏は、昨年はJFLの水戸ホーリーホック、それ以前の6年間はホーリーホックの前身・プリマハム土浦の監督を務めていた。

現在は3年生以下の若いチーム。それだけに、「とりあえず入替戦の場を経験する」ことが重要な意味を持つ」と、中野総監督は言う。東京から4校、神奈川・千葉・埼玉からは各1校が出場できる関東大会だが、北関東地区からは茨城・群馬・栃木の3県の代表1校しか出場できない。北関東からの入替戦挑戦は、実に28年振りだ。

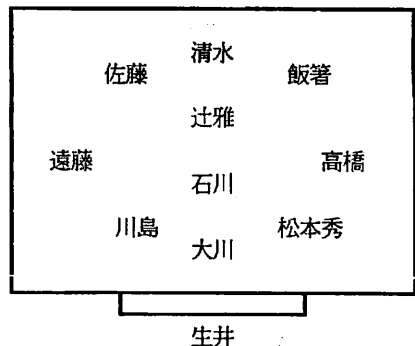
確かに、チーム力はまだまだ未知数な部分もある。茨城県リーグでは、レベルの差からか大勝が多かったため、いたずらに余裕を持った軽いプレーがそここに顔を出す。関東リーグの大学の早いチェックの前で、自分たちのプレーを出すことができるだろうか。

しかし、この場に立ったことがいかに重要であろうと、「やるからには…」という気持ちももちろん持っている。前日まで3日間の合宿を張った。理論的なミーティングも重ね、オーソドックスなプレーだけでない「秘策」もあるようだ。「目指すのはフェアプレーと、1-0で勝つサッカー」(中野総監督)と言うだけあって、守備陣にはある程度の自信ものぞく。体を張って攻撃を組み立てる清水、レイソルユース出身でキープ力のある飯箸、キックの技術と器用さを持つ佐藤の攻撃陣に期待がかかる。

流通経済大学

最近4年間の成績

- '95 茨城県リーグ1位(4勝)
北関東代表決定戦勝利
関東大会1回戦で敗退
- '96 茨城県リーグ2位(2勝1敗1分)
北関東代表決定戦で敗退
- '97 茨城県リーグ1位(4勝)
北関東代表決定戦勝利
関東大会予選リーグで敗退
- '98 茨城県リーグ1位(7勝、中止1)
北関東代表決定戦勝利
関東大会準優勝で都県2位
→入替戦 VS 専修大



各地区の秋季リーグ戦結果

J1東日本カップ 98 第72回関東大学サッカーリーグ戦

順位	2部	東学大	日大	法大	亜大	青学大	早大	専大	東農大	勝	負	分	総	得失	
1	東京学芸大	0●4	0●1	4●0	2●1	3●1	3●0	4●0	15	5	2	1	16	7+9	
2	日本大学	4●0		3●2	4●2	1●4	0●2	2●1	2●1	15	5	2	1	16	12+4
3	法政大学	1●0	2●3		1●2	3●2	0●0	1●0	2●0	11	3	2	2	9	7+2
4	三葉至大	0●4	2●4	2●1		0●0	3●1	2●0	1●1	11	3	2	2	10	11-1
5	南山学院大	1●2	4●1	2●3	0●0		2●0	2●3	1●0	10	3	3	1	12	9+3
6	早稲田大	1●3	2●0	0●0	1●3	0●2		3●1	2●1	10	3	3	1	9	10-1
7	専修大	0●3	1●2	0●0	0●2	3●2	1●3		3●2	7	2	4	1	8	14-6
8	東京農大	0●4	1●2	0●2	1●1	0●1	1●2	2●3		1	0	6	1	5	13-10

第31回東京都大学サッカーリーグ戦

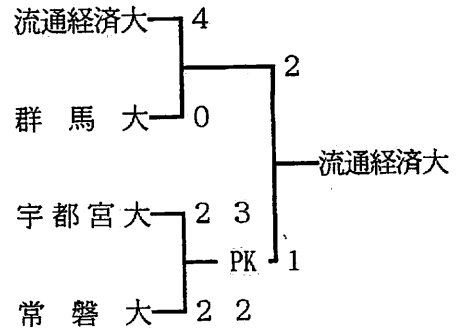
順位	立正大	学習院	東経大	拓殖大	國學院	東洋大	日大文	大東大	勝	負	分	総	得失		
1	立正大	1△1	1●0	1△1	1●0	1△1	2●1	4●0	15	4	0	3	11	4+7	
2	学習院大	1△1		2●1	2●0	0△0	0△0	1●0	1△1	13	3	0	4	7	3+4
3	東亜経済大	0●1	1●2		0●2	3●2	4●3	4●1	4●2	12	4	3	0	16	12+4
4	拓殖大	1△1	0●2	2●0		1△1	1●0	1△1	2●0	12	3	1	3	8	5+3
5	國學院大	0●1	0△0	2●3	1△1		3●0	1●2	0△0	6	1	3	3	7	7±0
6	東洋大	1△1	0△0	3●4	0●1	0●3		3●0	1△1	6	1	3	3	8	10-2
7	日大文	1●2	0●1	1●4	1△1	2●1	0●3		2△2	5	1	4	2	7	14-7
8	大東文化大	0●4	1△1	2●4	0●2	0△0	1△1	2△2		4	0	3	4	6	14-8

平成10年度茨城県学生リーグ

順位	流通大	常磐大	茨城A	茨城大	茨城B	つくば	茨城C	茨城直轄	神奈川大	勝	負	分	総	得失		
1	流通経済大		5●0	4●0		5●2	2●1	11●1	9●0	8●0	18	6	0	44	4+6	
2	常磐大	0●5		1●3	1●0	6●0	6●1	2●0	9●1	8●0	18	6	2	0	33	5+28
3	茨城大関東会A	0●4	3●1		0●1		1●0	13●0	4●0	2●1	15	5	2	0	23	3+20
4	茨城大		0●1	1●0		1●2	5●0	3●0	5●1	8●0	15	5	2	0	23	4+19
5	茨城大関東会B	2●5	0●6		2●1		3△3	10●0	2●0	2●1	13	4	2	1	19	11+8
6	つくば国際大	1●2	1●6	0●1	0●5	3△3		9●1	7●1	8●3	10	3	4	1	26	20+8
7	茨城大関東会	1●11	0●2	0●13	0●3	0●10	1●9		9●1	3	1	6	0	10	38-28	
8	茨城直轄	0●9	1●9	0●4	1●5	0●2	1●7		0△0	1	0	6	1	3	27	-24
9	茨城リハビリ大	0●8	0●8	1●2	0●8	1●2	3●8	1●9	0△0	1	0	7	1	6	37	-31

※空欄は台風による中止、そのため順位は暫定

北関東代表決定戦



第31回関東大学サッカー大会

Aブロック

順位	拓殖大	東経大	国武大	立正大	勝	負	分	総	得失		
1	拓殖大	2●1	2●1	1●0	9	3	0	0	5	2	+3
2	東京経済大	1●2		2●1	2●0	6	2	1	0	5	+2
3	国際武道大	1●2	1●2		3●0	3	1	2	0	5	+1
4	立正大	0●1	0●2	0●3		0	0	3	0	0	-6

Bブロック

順位	流通大	神大	城西大	学習院	勝	負	分	総	得失		
1	流通経済大	1△1	4●1	2●1	7	2	0	1	7	3	+4
2	神奈川大	1△1		4●1	1△1	5	1	0	2	6	+3
3	埼玉大	1●4	1●4		1●0	3	1	2	0	3	-5
4	学習院大	1●2	1△1	0●1		1	0	2	1	2	-2

決勝戦

拓殖大 1-0 流通経済大
(拓殖大は都県1位、流通大は2位)